

令和4年度第2回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会の 会議録

1 日時・場所

令和5年3月9日（木）15:00～16:00

役場庁舎202会議室

2 出席者

審議会委員：16名出席

上田委員長、齋藤委員、木村委員、高野委員、塚越委員、小山委員、山口委員、谷委員、鈴木委員、長井委員、大能委員、杉村委員、横田（別所）委員、金子委員、石井委員、土淵委員

事務局：中村教育長

教育推進課：竹内学校管理幹兼副課長

3 開会

4 挨拶

教育長及び上田委員長から挨拶

5 議事

令和4年度教育行政重点施策の「中学校区を中心とした特色ある小中一貫教育の推進」について説明後、各中学校区の実践について資料を基に発表があり、その後、協議を行った。

上田委員長：各校の発表について、御質問、御意見のある方はいらっしゃいますか。杉村委員さんSプランについていかがでしょうか。

杉村委員：各校、地域性や立地を含めて工夫して活動していると思います。須賀中、須賀小は目に見える範囲に子どもや先生がいる中の活動で可能性が広がると感じています。学校が離れている校区内ではなかなかできないことがあります。その立地上恵まれていることを生かして活動されていると思います。近いからと言って何でも対面でやるのではなく、ICT等を使いながらいろいろな可能性に挑戦するという御努力されていると思いました。

上田委員長：Mプランについて、石井委員、何か御意見ありますか。

石井委員：須賀中学区は、小中1校1校ですが、百間中学区は小学校が2校という中で、中学校に入学すると別の学校からも友達が入ってくるということは難しいことでもあり、逆に変わったことで、人間関係が変わったりすることもあり、いい形で子供たちが成長していることを感じました。9年間を通してゆずり葉プランを使って指導していることを感じました。

上田委員長：土淵委員Mプランについて御意見ありますか。

土淵委員：自分も一つの学校に何校からか入ってくるという経験をしてきました。逆に、1小1中で9年間そのままということで、高校に行くときに新しい友達ができる

のかという心配をよく聞きます。同じ学校内の子供同士のつながりも大事ですが、1小1中の難しさもあります。中学校同士の横のつながりが町の中でできるともっとよいと思っています。小中の縦のつながりももちろんですが、小さな町でもあるので、横のつながりもできたらよいなと感じています。

上田委員長：横田委員いかがですか。

横田（別所）委員：代理で来ました別所です。貴重なことをお聞きして勉強になりました。

私の娘も今6年生で、4月から百間中にお世話になります。卒業を前にして不安なことと楽しみにしていることとあるようです。百間中の先生が来てくださって授業をしてくださったときも楽しかったと言っていました。挨拶運動に来てくださる百間中学校の生徒会の皆さんは、小学生からするととてもキラキラ輝いて見えて、私も中学生になったら生徒会をやってみようかなと前向きな発言をしておりましたので、そういった意味でもこの小中一貫教育は中学生にあがるときの不安の軽減になっていると理解しております。

上田委員長：金子委員さん、いかがですか。

金子委員：先ほど、百間中の土淵委員がおっしゃったように、私も複数の小学校から中学校へ行くという、交わりがよいと、自分は体験していないのですが思いました。また、小学校から中学校への縦のつながりと同じように、横のつながりもあるとよいと感じました。小学校で言うと、コロナ前は、町内陸上大会等がありましたが、他校と競ったり、集まって何かしたりすることで自分たちの学校の一体感が生まれたりすることがあるので、そういった機会を設けていただけるとよいと思います。小さい町で比較的そのような機会を持ってそうな気がします。こういうことが一度でも二度でもあると、より自分たちの学校で一体感や仲間意識が持て仲良くなれるのかなと思います。機会を御検討いただけるとありがたいです。

上田委員長：大能委員さん、いかがですか。

大能委員：コロナ禍でこのようにいろいろなことをしてくださっていることに親としてはありがたさを感じています。私も横のつながりがあるといいなと思っています。自分の子供は中学1年生と小学4年生にいますが、ほぼ須賀小は須賀中に行くという何か縛られている感じがあり、慣れてしまっているところもあります。主体性を育てるためにいろいろな大人や中学生を見て自分がどのようなことをやりたいのか考えていけばいいのかなと思っています。例えば、小中学校の生徒、児童間で交流していますが、須賀中の生徒が笠原小の児童と交流するような、町全体での交流があつてのよいのではないかと思います。また、どうしても小中一貫教育というと接続ということで、小6と中1のつなぎとなりますが、初めの小1のところが大事で、例えば中2、中3と小1、小2のつながりを持たせられないのか等、そういう取組を考えられないのかと思っています。

上田委員長：校長先生方、何かございますか。よろしいですか。それでは、副委員長の齋藤委員をお願いします。

齋藤委員：各学校の素晴らしいお取組をされているという印象を持っています。義務教育の9年間は基礎を学ぶ9年間だと思っています。この9年間でどう過ごすかによって発達が違ってくるのだと思っています。そのような中で、視点ということで、「指導をつなぐ」「子供たちの心をつなぐ」、そして、「教職員の意識をつなぐ」という3点が須賀小の報告書に書かれていましたが、この視点にはすごく感動しました。指導には学習指導も生活指導もあると思いますが、その中で、小中の学校文化が違うと思います。子供さんの呼び方、子供への対応の仕方、生徒指導に関してのやり方というものが違ってくると思います。また、学習指導についても、板書の仕方、小学校の先生はとても上手です。低学年の指導の板書の仕方は、もしかしたら、中学校にも活用できるのではないかと思います。私は小学校の校長でいたときに、全ての学年の授業を見て、学習指導要領を確認したとき、小学校は素晴らしいと感じました。そういうことを中学校にも受け入れていただくとよいと思います。特に、指導方法などで、子供たちの意見を生かすことについて、小学校の指導が中学校にも必要になってくると思いました。また、生徒指導の中では、小学校の生徒指導と中学校の生徒指導では、まずは生徒指導委員会の位置づけが違っていたという気がしました。小学校の先生が中学校の生徒指導委員会に行くときと違った印象を持ち、中学校では校内でこのように動いているという情報交換ができるととても有効になるという思いをもって聞かせていただきました。それから「子供たち同士の心をつなぐ」ということで、同じ小中学校で9年間という、どこかで子供同士が接触している部分があると思うんです。顔もわかっていますし。それがよいのか悪いのかというお話がありましたが、人間関係が深すぎ、強く人間関係ができていて中学校で解消できないというものがありませんでした。それに対し、いろいろな工夫をして取り組みました。小さい小学校同士で行事を行ったりして。たくさん友達を作るということも大切です。クラス替えが頻繁に行われている大規模校ですと、学期ごとに友達を作る努力をしていくので、そこで学んでいることが多いという私なりの見解があります。地域の交流としての新たな取組もあつたらよいのではないかと思います。「教職員の意識」については一番大変だと思っています。小学校の先生は、とっても細かくやっていきたい、中学校の先生は学力、高校への進学を考えるとそれに特化しないと進学指導ができないと思います。進路を見据えてとなると、面白い授業を行いたいという思いもありますが、尚且つ、具体的な学力もつけてあげたいと思うと小学校とは違った部分も出てくると思います。そのようなことも考えて、小中学校でうまく考えていけるといいと思います。学習指導要領を見ると、小中で重なる部分があると思います。小6と中1では結構重なる部分があります。それ

を知らないとまた、同じことを繰り返すことになりますので、そこを効率よく行うとその時間がうまく使えると思います。その接点をうまくやっていただくと滑らかな接続ができると思います。

上田委員長：木村委員お願いします。

木村委員：私は教員経験がありません。専業主婦で、子供3人が、笠原小と百間中を卒業しています。一番上と一番下が6年離れたので、12年間笠原小で過ごさせていただきました。先ほど、何人かの方が、横の交流を活発にというお話をされていましたが、コロナ前、うちの子供たちがいたところに行っていた一番大きなものは、町内陸上大会でした。選抜チームに出るために各学校内で競い合って代表になって学校対抗で出たりしました。上級生になると綱引き大会がありました。各学校でグループを作って先生も相手をしてくれて綱引き大会に出ました。それから、町内音楽祭は校内で選抜されたりして出ますが、須賀中さんの3年生の合唱がすごくて、みんなで感動して学校の生徒も目標とするぐらいでした。それから、町や県のかかる大会もありました。息子もかなり練習をして他の学校の子たちと対戦すると意外に仲良くなったり、中学校に上がった時に東小の子が顔見知りだったりして、すぐに打ち解けることができました。また、島村守助を顕彰する英語発表会や環境会議等でも高学年で進修館の大ホールに集まって発表をしたりして、コンパクトな街で、学校数もあまり多くないのでこのような交流がとても活発にできていました。自転車大会でも、笠原小学校はいつも県大会へ行くために、先生たちが熱心に毎放課後残って指導してくださり、長男は県大会、全国大会と出していただきました。先生と生徒も一体になり、いろいろな行事の中で宮代町の各中学校の先輩の姿を見たり、とてもつながりができていた時期がありました。今回、コロナでずいぶん制限ができた、中止になったりしてしまっただけですが、これからwithコロナと政府が言っている中で子供たちを感染リスクにさらさず、ICTを活用してうまく前のような活発な行事とかが復活することを願います。子供たちが前のような体験的な活動ができるようになるといいなと思いました。ICTの使い始めは先生方も大変そうでしたが、今年度は活用が進んでいて、保護者としては心強いと感じています。先生方には、本当に感謝しかありません。ただ、その中でSNSを使うときのリテラシーというか、自分が危険に晒されているのに安易に情報を流して、ふざけ半分で情報を全世界にばらまいているというリスクを考えない、そういう行動で子供たちが潰されていく事例が見えてきています。スマホ等の使用が低年齢化していく中で、より早めに、より優しく、より危険性を伝えながら活用していかないと子供たちの成長の中で危険な状況になりやすいので、使わないわけにはいかない世の中の中で効果的に、そして健全に使えるように教育を引き続き行っていただけるとありがたいです。最後に、小中とのつながりの一つなのですが、うちの子が小学校でアル

トフォルンを吹いていたのですが、中学校へ教わりに行ったり、陸上大会の前に陸上部の方が教えに来てくれたり、そのようなことがあると、先輩は憧れの存在に見えてきて、中学校が楽しみになりました。そういう活動があるのですが、これから、部活動を地域におろしていくという国の背策があると思います。宮代町が、スポ少と中学校の部活のつながりとか、今後どのようにやっていくのかを知りたいです。部活の維持の中で小学校のスポ少から中学校の部活にうまくつなげられると益々活発にできるようになると思います。人材も含めてこれからの課題になるのかなと思っています。先生方にはいろいろ工夫して取り組んでいただき、宮代町の子供たちは本当に恵まれていると思います。これからもよろしくをお願いします。

上田委員長：では、最後に私から話させていただきます。昨日、上田農園のじゃがいもを300個植えました。この1畝は須賀小の特別支援学級の子供のため、2列目は、須賀中学校の特別支援学級の子供のためです。何個できるかなと考え、6月に掘っている姿を思い浮かべました。去年、子供たちは嬉しくて嬉しくて、いろいろなところを掘ってしまっていました。今年は畝を決めて掘る、これも一貫教育かなと思いました。そうしたら、今年の3月、両校で卒業を祝う会を行うということで、マジックショーをやらされました。大変盛り上がりました。このようなちょっとしたことが、一貫教育につながるのではないかと思います。理論等素晴らしいのも良いのですが、こういうちょっとしたことが、一貫校のきっかけになるのかなと思います。ただし、Sプラン、ゆずり葉プラン、Mプランも素晴らしい内容で本当に苦労されていることをつくづく感じました。特に、働き方改革で感じることは、時間が決まっていて、時間が制約されている中で、やることは増えている、家には持って帰れない、どうなっているんだろうと思います。校長先生方が気を使っているのではないかということをはしひしと訪問しながら感じているところです。次に、こんなことをやっていただけたらいいのではないかということをお話します。一つは、1組の先生が2組の先生にいろいろ聞きに行ったりすると、子供たちは先生方、仲がいいんだなと思うそうです。ですから、小中の校長・教頭、管理職が直接的、間接的に頻繁に情報を共有してほしいと思います。2つ目は、意外と小中の先生方同士が先生を知らないです。夏休み等、何かの取組をして、名前を知って顔を知ることも一貫校の基本ではないかと思います。それから、先生方は、水泳指導やマット運動の指導のコツを知っていません。コツをしっかり教えていただくと子供たちはよくできるようになります。また、校長先生方が得意なことを、小学校や中学校へ行って指導すると、子供たちだけでなく先生方も興味をもって見に行くのではないのでしょうか。この一貫教育は東部地区、埼玉の中でも最先端で行っています。より進めてください。私は、「中1ギャップ」

という言葉に反発しています。中学校へ行ったらギャップがあるのは当たり前です。環境が違う、部活が違う、クラスが違う。私がいじめや不登校の子供を見るために中学校へ行って感じたことは、子供は小学校時代に SOS を出しているということです。それに気づかないか、気付かいたけれどもまだいいと思ってしまうているか、それで中学校へ行くとわっと思ってしまう場合と、逆に中学校へ行って部活等が面白くてよくなる場合があります。ですから中1ギャップをあまり強調されると困るという感想を持っています。先生方つながり大事だと思います。

6 その他

事務連絡

7 閉会